会 議 の 概 要

1 会 議 名 (審議会等名)	令和5年度 宝塚市農業振興会議
2 開 催 日 時	2024年 1月 31日 14時～15時30分
3 開 催 場 所	宝塚市立中央公民館 205学習室
4 出 席 委 員	三宅康成、福田俊治、篠木秀夫、金岡昭弘、日野尾康行、堀川京子、中島達也、小西由香利（途中参加）（敬称略） 計8名（1名途中参加）
5 公開不可・一部不可の場合の理由	—
6 傍 聴 者 数	なし
7 公開の可否	☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可
8 議題及び結果の概要	<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱辞令交付等</p> <p>(1)辞令交付（退職等により後任者へ引き継いでいる委員）</p> <p>(2)市挨拶（産業文化部長）</p> <p>(3)三宅会長挨拶</p> <p>(4)委員自己紹介</p> <p>(5)事務局紹介</p> <p>(6)出席委員数の報告 委員8名中7名出席。会議の成立を報告。</p> <p>(7)情報公開について 会議録をホームページに掲載し会議概要を公開することについて確認。傍聴人はなし。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1)副会長の選出について 昨年度の会議においてひょうご農林機構片山副会長を選出したが、委員が変わっているため再度副会長を選出する必要がある。三宅会長より後任である中島委員が推薦され、全会一致で承認された。</p> <p>(2)第2次宝塚市農業振興計画に係る取組内容 令和3年度に策定した「第2次宝塚市農業振興計画」に関して、各事業の取組内容に</p>

について事務局より説明。説明にあたっては13の基本方針の内、以下の取組に絞って説明。

(1) 基本方針1次世代の担い手の確保

2 農地の集積・集約

令和4年度の取組内容・今後の展開

・地域における課題の共有及び農業経営基盤強化促進法の改正により法定化された「地域計画」策定に向けた取組への機運醸成のため、講師を招いての講演会を計2回、集落ごとの勉強会をのべ5回、開催した。今後は、国の交付金を活用し、計画策定に向けた地図の作成や話し合いなどを支援し、対象の北部地域10集落のうち、令和5年度中に2集落、残る集落については令和6年度中の策定を目指す。また、地域計画の策定を機に、認定農業者等の担い手への農地の集積を促進する。

(2) 基本方針4有害鳥獣による農作物被害の防止

1 地域と連携した有害鳥獣被害防止対策

令和4年度の取組内容・今後の展開

・農作物被害のアンケート調査を実施し、有害鳥獣侵入防止のためのワイヤーメッシュ柵や電気柵の有効な導入を支援した。また、地域住民が主体的に被害対策を検討するための研修会を実施した。(研修会開催1回 5集落19名参加)

(3) 基本方針6「農」を支える交流や農村への移住・定住等の促進

1 農村集落活性化の促進

令和4年度の取組内容・今後の展開

・新規就農者実績は5人、相談は26件。
・本市農業を担う農業者の育成及び確保のため、市内での就農を希望する者に対し、パイプハウスを利用した実践的就農機会及び農業経営能力を培う機会を提供する新規就農者確保事業(市内農地(パイプハウス)を最大2年間まで無償提供し、希望者は営農技術向上指導を受けることができる)を継続する。

・また、ひょうご就農希望者向けセミナー・相談会では14名、市で独自に実施した8月の就農相談週間では5名の就農相談に対応した。

・今後も積極的に新規就農者を確保、育成し、本市農業の振興を図っていく。

(4) 基本方針8農地の新たな活用の取組

1 市民農園開設の支援

令和4年度の取組内容・今後の展開

・農地維持が困難な農地や不耕作農地の土地所有者に市民農園の開設を提案し、開設を希望する土地所有者には開設手続を支援した。今後も継続して開設支援を行うことで農地の活用を推進する。(開設件数1件)

(5) 基本方針11「農」を知る機会の創出

2 地産地消の推進

令和4年度の取組内容・今後の展開

・市内産食材を学校給食へ提供を行い、市内小中学生が市内産食材や地産地消に関心を持つ機会を作った。

・市役所横河川敷で毎月第4日曜日に宝塚朝市を開催し、西谷野菜を販売する場を設けたほか、西谷朝市の会が文化芸術センターで毎月第2日曜日に開催しているたからの市に12回出店した。

(6) 基本助成 12「花き・植木」に触れ、知る機会の創出

1 接木技術の周知及び花き・植木の魅力発信

令和 4 年度の取組内容・今後の展開

・本市地場産業である園芸（花き・植木）産業の魅力を発信することを目的に、宝塚植木まつりを 2 回開催した。また、あいあいパークが行う市内小中学生等を対象とした山本地区の歴史学習会及び接ぎ木講習会について、5 回開催した。

・宝塚植木まつりでは来場者数の増加を目指すため、新規出店者の確保等イベント内容の充実を宝塚市花き園芸協会と検討する必要がある。また、接ぎ木の技術が発明されたことに関する市内外への PR については、引き続き、市 HP に掲載するほか、当市園芸（花き・植木）産業の発信拠点であるあいあいパーク等とともに実施していく。

・「宝塚市ダリア生産拡大推進事業補助金」にて、令和 4 年度は 3 事業者の採択を行い、新たな加工品の開発・調査研究に係る取組を支援した。また、令和 3 年度に発行したムック本を 2,000 部増刷したほか、市内の緑化団体（74 団体）にダリア球根の配布を行った。今後も市花ダリアが市内外を問わず多くの方に認知してもらえようダリアの普及啓発に取り組んでいく。

・市立長谷牡丹園は、令和 4 年 4 月 25 日から令和 4 年 5 月 15 日まで開園し、入園者は 4096 名だった。今後は、更なる誘客力の向上を図り、来園者数の増を目指す。

《委員からの主な意見とやりとり》

【新規就農について】

(委員)

新規就農者 5 名とは相談 26 件の内から 5 人か。別のルートで 5 人なのか。

(事務局)

相談 26 件のうち 5 名が新規就農に結びついたということ。

(委員)

セミナー相談会 14 名が改めて市へ相談に来たのか。また、セミナーを通じて新規就農する方は今までもいたのか。

(事務局)

報告は令和 4 年度実績で、セミナーには宝塚にターゲットを絞っていない方もいる中での 14 名である。その中で宝塚市への就農を希望したのは 2 件。まだ就農まで結びついてはいないが、今も相談を継続中となっている。

(委員)

新規就農者は宝塚市へ相談があった分だけを計上しているのか。地域へ直接入っている人は入っていないのか。

(事務局)

農地の貸し借りや売買等を行う際は農業委員会を通るので、そこで市はわかる。

(委員)

地域で農地等を一式買う方がいた。当初はどんな方かわからず心配だったが、集落営農にも入る予定となっている。

(委員)

集落に直接入る方がどんな方か心配はある。市へ相談があれば、どんな方かがわかるためスムーズになる。

(事務局)

地域へ直接入る方は相談の件数には入っていない。新規就農者としては件数に入る。新たに農地を貸し借りや購入するときには農業委員会に届け出が必要なので、その時点で農会や地域の方と相談しているか確認している。

(委員)

別の地域で新しく入ってきた方により迷惑が掛かっているという話を聞いたことがある。周りは稲作で水を切るが、いつの間にか水が入るようになってきているようだ。また、農地で草を刈っておらず、近所に種が飛んできて雑草が生える。

(委員)

令和4年度は新規就農者が5人となっているが、前の年と比べて多いのか。

(事務局)

令和3年度は5名で、それ以前は2名や1名など新規就農につながった件数は少なかったもので、近年は多い傾向にある。

(委員)

県全体の感覚で言うと、阪神間と淡路は新規就農者が多い。淡路は受け皿が大きいのだが、阪神間は地の利があるため、但馬西播磨に比べると多い傾向がある。そういう意味では可能性がある地域であり、魅力のある地域なので一生懸命やってもらいたい。また、相談のパターンはどのようなものが多いか。市に直接相談に来るのか、市内の方が多いのか、傾向は把握しているか。

(事務局)

三宮で開催している兵庫就農希望者向けセミナーに宝塚市が参加し始めたのはつい最近で、令和2年度や3年度くらいなのだが、それまでは新規就農の相談は市に直接という形が多かった。市内の方というよりは、JAの直売所へのアクセス的な理由で、猪名川・川西・三田・宝塚のあたりを順番に見ていってそれぞれに相談しているパターンがあった。現在は別口で間口を広げていっているところ。

【市民農園について】

(委員)

市内で20か所とあるが、利用状況はどうか。

(事務局)

ほとんど埋まっている。コロナ前は定員割れすることもあったが、コロナに入ってから常にいっぱいの状況。市が運用をお手伝いしている農園がこのうち10か所で、最長で3年間継続できるという形のため毎年1/3くらいずつ空きができるが、募集すると定員よりかなり多い申し込みとなる。

(委員)

令和4年度に新たに開設された1件についても、順調に利用されているか。

(事務局)

そう聞いている。この1件は民間で開設された分である。

(委員)

京都や大阪、東京といった大都市ではマイファームやシェア畑などの、民間が運営するものがあるが、宝塚市の中にはそれらはあるか。

(事務局)

シェア畑もマイファームもどちらも出てきている。20か所の内の4か所がそう。

(委員)

農園の区画数はニーズにより違うと思うが、宝塚市全体で20件というのは需要に対して足りているのか。

(事務局)

開設場所が固まってしまうたり、同じ方が複数開設していたりすると、その地域は足りているが場所によっては足りない等の声はある。遠いところとなるとアクセスの問題が出てくるので、市民の方からすると増やして欲しいこともある。

(委員)

市民農園を開設したい場合は市役所に言えばできるのか。どういう手順になるのか。

(事務局)

基本的には市に相談をいただき、法律に基づいた開設の方法が複数あるが、最終的には農業委員会を通して開設するという形になる。

(委員)

JAが管理している農園も南部で5か所ある。北部にもたくさん市民農園があるので、街中にあり自転車で行けるような農園とは別で、車で来て日中に作業をして帰るような市民農園も宝塚の中には結構存在する。

(委員)

開設に関する相談についてJAさんのルートや市のルートはどこかで一本化されるのか。農家の方がJAさんに相談したり市に相談したりして、結局はそれぞれがアドバイスをしながら開設するということか。

(委員)

JAがしているのは、申請をする前の整地とかのお手伝いや代金回収と苦情対応等の窓口。申請は市役所でしてもらう。

(事務局)

マイファームやシェア畑がやられているような開設支援をJAさんがしている。

(委員)

市民農園利用者数の目標が800人となっているということは、もっと開設するということか。今で利用がいっぱいということは目標に対してはまだ市民農園が足りないという感覚なのか。

(事務局)

計算としては2年に1農園ずつ増えていくという算出で10年後に800人という形。需要に基づいた供給が大切と考える。

【生産緑地について】

(委員)

生産緑地で苦勞している部分はあるか。特定生産緑地があまり聞きなれない言葉で、なんとなく30年がどうという話は知っているが、それが円滑にいつているのか。

(事務局)

生産緑地面積は、計画策定した当初69.72haであり、特定生産緑地を継続する面積を目標として掲げている。生産緑地は30年経つと転用できるため、指定を解除して転用していくような流れになり得る。目標では42.92haが生産緑地として残るとしている

ところ、現状は 52.69ha が残っている。2022 年の 10 月 6 日に 30 年を迎えた生産緑地が一番多かったのも、わりと残っているというイメージがしている。

(委員)

実際、阪神地域は生産緑地が多いが、全体の傾向としてわりと残ったという印象がある。

(事務局)

土地を所有している方が指定を解除するとなったら、市は止めることができないため、結構な（指定解除の）申請件数があるのかと構えていたが、そこまでなかったという形。

【農地の維持・次世代を担う人材について】

(委員)

花き園芸をやっているが、相続税が高くて手放す方が多い。また、次世代を担う方が会社員だとか、女の子しかいないとか。女の子しかいない場合、植木屋を継いでやってくれるような男の子が養子で来てもらえればありがたいが、難しい。植木をしていると夏は暑く冬は寒い。虫にさされる。朝は早く帰ってくるのは遅い。脚立から落ちたらケガもするし、中には両腕を落としてしまったという話も聞くし、そういうので就職で来てくれるような子は少ない。結局は相続税であるとか後継ぎがいなくてかにならなくなる。

(委員)

事業のニーズはあるのか。

(委員)

ニーズはある。卸屋は山本だけで 3 軒ほどあるが、大きい木や大量の注文を地方で、少量の注文を山本でしているような状態。

(委員)

担い手がいなくて人手不足ということか。

(委員)

植木の生産しているのが山本だけで 4 軒ほど。昔は 70 軒くらいあったが、次世代が会社員だとか女性しかいないとかでだんだん減ってきた。影響が大きいのは相続税で、家の相続をするのに農地を手放さないと払えないということがある。納税猶予を受けてやっているが、結局は（継ぎ手が）農業をしてくれないことには解決しない。

(委員)

うちもダリアの花の生産と球根の生産をしており、実際にダリアを生産しているメンバーは高齢者が多いが、新規に始めてくれた方も中にはいる。1 人は、農業が好きで西谷に来た方。2 年前くらいからダリアの花まつりの時とかに手伝いに来てくれていて、去年から本格的に始めた。彼女は 40 代。もう 1 人は近所の主婦だが、人手が足りなくて時々ダリアの出荷のお手伝いを頼んでいた。長年ずっとお手伝いに来てくれている中で、ダリアを植えるお手伝いをお願いしたり、手入れのお手伝いをお願いしたり、というような形で何年もずっといろいろな作業を覚えてもらってきた。ダリアの花が終わった後に掘り上げて球根を分球する一番難しい作業も技術の継承のために勉強にきてもらうようになった。分球の後は収穫したダリアを洗い、芽がついているかどうかを見る検査がある。これも熟年の先輩について、ちゃんと芽が見れているかどうかの訓練をしな

がら見れるような形になったので、1・2年前くらいから少し畑を借りてダリアを作るようになった。その家はトラクターもなく田畑も持ってないので、農会の方にトラクターを出してもらって、畑をすいてもらって植えれるようにするというような形でやっている。

できれば新規で40代とか30代とか若い人に入ってもらえたら一番いいなと思うが、それがなかなか叶わない。西谷地区から外に出てしまったら帰ってこないというのが実情で、空き家もどんどん増えてくる傾向になっている。空き家になると耕さない畑や田んぼも増えてくる。新規就農を考えるなら空き家対策もプラスアルファで考える必要がある。サラリーマンが西谷から勤めに行くには車で20分かけて武田尾まで行けばJRで1時間以内で大阪梅田の方に通勤はできるが、そうではなく地元で頑張るんだったらこういうダリアの球根の栽培がありますよというPRができたらなと考える。ダリアの花を作れば切り花として出荷するルートを園芸組合が持っているので、花を出荷することもできるし、市場でもダリアが注目されていて、夏と秋の2回切り花が出荷できて球根も注文がととても多い。ぜひとも就労される方がいたらいいなと思っている。

(3) 評価指標の進捗状況について

第2次宝塚市農業振興計画において設定している成果指標について説明。

当計画が10年計画であることから、前半の区切りである令和7年度末時点で全体の目標値の見直しを考えている。ただし、⑩「農」に関する講習会等参加者数のみ目標値の見直しについてご審議いただきたい。この項目は接ぎ木や有害鳥獣の講習会、地産地消事業として市内小中学校で行った事業の参加者等を含めた数値である。計画作成時に、令和4年度に向けた特定生産緑地の説明会を含んでいたが、一時的な講習会のため目標値の基準となる作成時現状値としては相応しくないと考える。このため、目標値について1,400人から令和2年度特定生産緑地説明会150人を除いた1,250人に変更したいと考えている。

《目標値を変更することについて》

特に意見はなく、変更することについて承認

《指標の進捗状況について委員からの主な意見とやりとり》

【有害鳥獣による農作物被害について】

(委員)

主に何の被害が多いか。

(事務局)

金額的にはイノシシが多いが、シカやアライグマも被害は出ている。アライグマに関しては出没だけなら南部もかなりある。

(委員)

南部で夏場にスイカを作っているが、アライグマとカラスが来る。カラスは釣り糸を掛けて防いでいる。アライグマは電気の柵の小さいバッテリーのもので対応している。

(委員)

被害額の数字はどのように取っているのか。

(事務局)

集計は市内 28 農会の各農会長から農会員に照会してもらい報告が上がってきたものを集計している。家庭菜園でしているものを計上される方も中にはいる。比較的細かいところまで出てきていると認識している。また、水稻共済も入っている。

【認定農業者について】

(委員)

今のところ指標には目標値がないが、担い手の確保について、認定農業者の人数が宝塚市内に 15 件だが、実際に認定を取っている方は大規模な酪農家や苗木生産している方くらいで、北部で水稻を大規模にしているとか野菜を作っている方はあまりない。JA としても認定農業者を応援して、もっと所得を上げる方をたくさん作っていくという目標があり、できれば認定農業者になり将来担っていく方を増やしていきたいという思いがある。このような指標で目標値を上げていき、もっと認定農業者を増やしていくという視点もあっていいのかと思う。農家から認定を取ったから何かメリットがあるのかとは結構言われる。ここ（認定農業者数）を目標値に入れるのかはまた議論が必要かと思うが、認定農業者が全然増えていないので、水稻とか土地利用型の農業をしている方の認定農業者ももっと出てきてもいいのではないかな。

(事務局)

方向性としては担い手を増やすというのがあり、認定農業者を増やしたいと思う。ただ、計画を作るのに記載する目標所得のハードルがかなり高い。制度の存在自体を知らない方もいるが、知っていても所得が高い、メリットがあまり感じられないとかでなかなか増えない。地域によっては認定農業者になるのが当たり前みたいなのところもあるようだが、宝塚は今のところそういう文化ではない。ただ、方向性としては増やしていきたいと思っている。

(委員)

目標所得の金額は水稻や酪農等業種によって違うのか。

(事務局)

金額は同一。水稻だけでは農業所得を上げるのは難しく、目標には達しない。やはり野菜や植木でない。逆に水稻が入ると、所得は収入から経費を引いた金額のためマイナスになる。宝塚の農業でそこまで大規模にやっているところはなく、所得は上がらない。水稻が入ると厳しいというところも人数が低迷している理由にあると考える。

【目標値の見直しについて】

(委員)

目標は 5 年ごとに見直しをするのか。

(事務局)

元々 5 年で見直しをすると謳っているわけではなく、(計画策定の) 審議会の中でもそういう議論はなかったと認識している。ただ、目標値と現状値を並べたときにかなり乖離が出ているところもあるため、実現可能性を追う必要があると思い、5 年後に見直しをどうかと今回言った次第。

(委員)

先ほど認定農業者の話もあったが、(評価指標の) 柱建ての 1 番に担い手があり、集落営農組織で数値目標があるが、今回の審議会の中で新規就農者の話も出たので、認定農

業者がいいか新規就農者がいいかというのはあるが、担い手というのをもう少し身近に感じられるものを目標に検討していきたい。

また、先ほど⑩については目標値を 1400 人から 1250 人に変更するとあったが、R3 と R4 を見ると 900 人にいかない状況。目標の 1250 人も高いのかもしれないと少し思ったので、5 年ごと見直しを考えるのであれば 1250 人もそれでいいのか検討していきたい。

最後に、有害鳥獣については目標を達成している数値になっており、宝塚市はいろいろ丁寧なケアをして減っていった方向のため、もう少し高い目標も立てられないか検討していきたい。

4. 閉会

(会長)

本日の議題は全て終了した。これにて閉会とする。